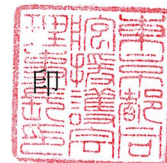


新宿区長宛て

申請事業者 所在地 新宿区原町3-8  
(運営法人)

法人名 社会福祉法人 恩賜財団  
東京都同胞援護会

法人代表者  
職名・氏名 理事長 飯山 幸雄



## 福祉サービス第三者評価受審結果に基づく改善取組計画書

下記のとおり改善課題および具体的な取組計画をまとめたので報告します。

### 記

#### 1 受審事業所名

原町グループホーム

#### 2 改善課題

- ① リビング前には一周できるベランダがあり、日光浴等には効果を上げているが、階下へ降りてしまう事例があるため、早急な対策を期待したい

・事業所は、高齢者複合施設として5階建てで、1階は地域交流室、2階は小規模多機能居宅介護センターが、グループホームは3、4階に位置している。外観は採光を意識した構造と意匠になっている。グループホームの居室やリビング前には、幅のあるベランダがほぼ一周し、日光浴や歩行による生活リハビリには最適と思われる。一方、ベランダから直接階下に降りられるため、ベランダでの利用者の行動は常に把握する必要がある。以前、階下に利用者が降りてしまったという事例もあり、何らかの手立てを行ない、安全な環境で過ごせる対策に期待したい。

- ② 利用者の個別支援記録等は、紙媒体による手書きとなっているため、業務の効率化、職員の負担軽減の観点から電子化を早急に進めてほしい

・事業所では、利用者の個人記録や個別支援の経過、バイタルチェック表等が紙媒体のままで、手書きとなっている。介護記録の電子化は、ここ数年拡大の一途で、業務の効率化、職員の記録への負担軽減、利用者への支援時間の確保等の観点から、業界全体で進められている。職員調査でも、「手書きの記録が多い」「業務の効率化を図るため、電子化が必要と思われる」と切実な声が挙がっている。法人内では、すでに電子化を導入している事業所もあり、職員の業務負担の公平性、迅速なサービス提供を実現するためにも介護記録の電子化を早急に進めてほしい。

- ③ 事業所は、開設から8年が経過し経年劣化による設備の修繕、買い替え等の課題があり、環境改善に向けた取り組みに期待したい

・事業所は、開設から8年が経過し、設備の老朽化による各種の修繕(トイレ、エアコン等々)や備品の買い替え等が課題として挙がっている。職員調査でも、利用者の身体状態に合わせた入浴介助の改善策として、風呂場設備の改善(椅子、床、空調など)、新しい車椅子の購入等の声が寄せられている。フロア会議、グループホーム会議等で設備の老朽化による修繕や買い替え、あわせて居住環境の整備について、収支見込を踏まえ検討を加え、事業計画に載せ、利用者にとっても職員にとっても快適な環境の維持と向上を目指してほしい。

### 3 具体的な取り組み

- ① 各居室にはドアセンサーを設置しているが万全を期すため、ベランダに人感センサー等の設置を検討し、安全な環境で過ごして頂くように配慮をしていきたい。
- ② 介護記録等については、現在紙媒体で手書きとなっている。記録業務に時間を要することが多く業務負担となっているため、来年度に向けて介護記録ソフトの導入を予定している。
- ③ 開設から8年以上が経過し、設備等の老朽化が目立ってきている。今後も必要に応じて修繕を行い、居住環境を整えていきたい。

### 4 評価機関に対する感想

事業所の特性を理解して、評価をして頂いた。特に問題なく、受審できたと思う。

### 5 受審事業所からの意見等

特にありませんが、事業所の特性上日々慌ただしい中で受審しているため、そのあたりのご理解をお願いしたい。